

# 9月豊橋市議会傍聴記

④

## 地方政治クリエイト 伊藤 秀昭

### ■TPP

7月15日からマレーシアでTPPの拡大交渉会合が始まり、日本は12番目の交渉参加国として、初めて参加した。この動きに呼応して、「農業先進地、豊橋にどのような影響があり、その効果を最大化し、不利益を最小限にとどめる対策を急がねばならない」と質問したのは豊田一雄氏(新政未来)。

豊田氏は生産品目の特性により輸出の可能性が高まる品

目②影響が軽微である品目③影響が大きくなる品目④支援難になる品目⑤政策により、生産を維持していく必要がある品目に分け議論を展開し、国の「日本再興戦略」に応募した県の「アグリ・フロンティア創出特区」に言及していた。

一般質問とは何か。何を論ずべきか。いや、何を論じなければならぬか。この感性が登壇する議員には問われている。その意味

で傾聴に値する今議会の代表的な質問だった。

■不用品回収 4〜5年前から空き地を使って、不用品無料回収が行われている実態について取り上げたのは市原享吾氏(豊流会)。

環境部長はこのような業者の行為が直ちに「廃棄物処理法違反」になるとは考えられないとしながら、適正な廃棄物の処理の観点から、

定期的なパトロールなどで、監視指導を行っていくとした。

廃家電は、「ミカ中古品か、違反か違反でないかが分かれる。そして何よりも粗大ごみを処分するのに金を払いたくない」という消費者のモラル「530のまち」の市民意識

が問われている。 ■入札制度 寺本泰之氏(紘基会)は今回も市の入札制度、特に市が採用している最低制限価格制度、失格判断基準、低入札価格調査などがどのような議論が行われて導入

されたのかについて切り込んだ。 そのことを39社が参加し、半数の20社が最低制限価格を下回ったということ失格した例を挙げ「これが公平で、公正な競争入札か」と追った。

当局は「入札契約制度そのものが論点

ます」として、各会派代表者を集め協議し、開会もせずに「公判中という事でありますので、今の質問...ということでしょうか」ということでもうしくお願ひします」として、議事を継続した。

いかなる根拠に従って、議会は判断し

「せっかく、傍聴に来たのになせ昼までやらないんだ。これをムダというのだ」との声が上がったし、

後にはいなかった。 議会は大事なことを忘れていないか。

■市民病院 斎藤啓氏(共産)が市民病院の看護師増員計画や来春開設予定の総合周産期母子医療センター、パースセンターの体制づくりについて質問した。

斎藤氏は看護師不足が依然として厳しく、看護師の夜勤回数が国の目安として

午前11時半に、午後1時までの休憩に入った。傍聴席からは

床数の削減を求めた。議論が反対方向に動いたのは意外だった。

■森林政策 「私は森が大好きです。大学生の頃から間伐のために毎年、山に入りまして」と切り出した尾崎雅輝氏(新政未来)は市の森林政策について取り上げた。

今まで、三河材の利用などについての議論はあったが、豊橋の森づくり、森の可能性や潜在化した価値を正面から論じる姿は新鮮だった。

■農業後継者 向坂秀之氏(豊流会)は「何故農業従事者、農家数が減少

しているのか」と問題提起した。

産業部長は「昨年のアンケート調査では回答のあった4000戸の農家の60%が後継者のあてがないまま農業を続けている」と実態を明らかにした。

「農業を労力にあつた対価を得ることができ、将来の見える産業にすることが最も大切」と答えは明白でありながら、議論はいつもここでとどまる。

この古くして深刻な問題の突破口を、「元気な豊橋は、私たちの手で」と農業に生きる向坂氏自身で拓(ひら)いていただきたい。

## 豊橋の農業は生き残れるか

が問われている。 ■入札制度 寺本泰之氏(紘基会)は今回も市の入札制度、特に市が採用している最低制限価格制度、失格判断基準、低入札価格調査などがどのような議論が行われて導入

されたのかについて切り込んだ。 そのことを39社が参加し、半数の20社が最低制限価格を下回ったということ失格した例を挙げ「これが公平で、公正な競争入札か」と追った。

当局は「入札契約制度そのものが論点

ます」として、各会派代表者を集め協議し、開会もせずに「公判中という事でありますので、今の質問...ということでもうしくお願ひします」として、議事を継続した。

いかなる根拠に従って、議会は判断し

「せっかく、傍聴に来たのになせ昼までやらないんだ。これをムダというのだ」との声が上がったし、

後にはいなかった。 議会は大事なことを忘れていないか。

■市民病院 斎藤啓氏(共産)が市民病院の看護師増員計画や来春開設予定の総合周産期母子医療センター、パースセンターの体制づくりについて質問した。

斎藤氏は看護師不足が依然として厳しく、看護師の夜勤回数

午前11時半に、午後1時までの休憩に入った。傍聴席からは

床数の削減を求めた。議論が反対方向に動いたのは意外だった。

■森林政策 「私は森が大好きです。大学生の頃から間伐のために毎年、山に入りまして」と切り出した尾崎雅輝氏(新政未来)は市の森林政策について取り上げた。

今まで、三河材の利用などについての議論はあったが、豊橋の森づくり、森の可能性や潜在化した価値を正面から論じる姿は新鮮だった。

■農業後継者 向坂秀之氏(豊流会)は「何故農業従事者、農家数が減少

しているのか」と問題提起した。

産業部長は「昨年のアンケート調査では回答のあった4000戸の農家の60%が後継者のあてがないまま農業を続けている」と実態を明らかにした。

「農業を労力にあつた対価を得ることができ、将来の見える産業にすることが最も大切」と答えは明白でありながら、議論はいつもここでとどまる。

この古くして深刻な問題の突破口を、「元気な豊橋は、私たちの手で」と農業に生きる向坂氏自身で拓(ひら)いていただきたい。



伊藤秀昭氏